



すべてを失っても、もう一度つながれる社会を目指して

2024年2月15日

NPO法人 やどかりサポート鹿児島

**第24回全日本冠婚葬祭互助協会
社会貢献基金 中間報告会**

社会福祉士：中芝あすか

この度は、当法人の活動を助成いただき心より感謝申し上げます。
貴協会の基金により、地域にとって大変有益な事業を行うことができました。

事業名：「地域葬・互助会葬を目指す「つながるファイル」事業」

目的：身寄りのない人どうしが支えあい助けあう「互助する暮らし方」を営み，なかまの最後にあっては見送りあい弔いあう関係を築き，「地域葬・他人葬・互助会葬」があたり前に行われる地域を創造すること。

内容：① 通年にわたって「つながるファイルを書く会」を開催
② 通年にわたって「つながるファイルを「語る」会」を開催
③ 通年にわたって「互助会サロン」を開催
④ 「共同墓設立に向けた検討会」を開催
⑤ つながるあんしん事業広報のためのリーフレットを作成

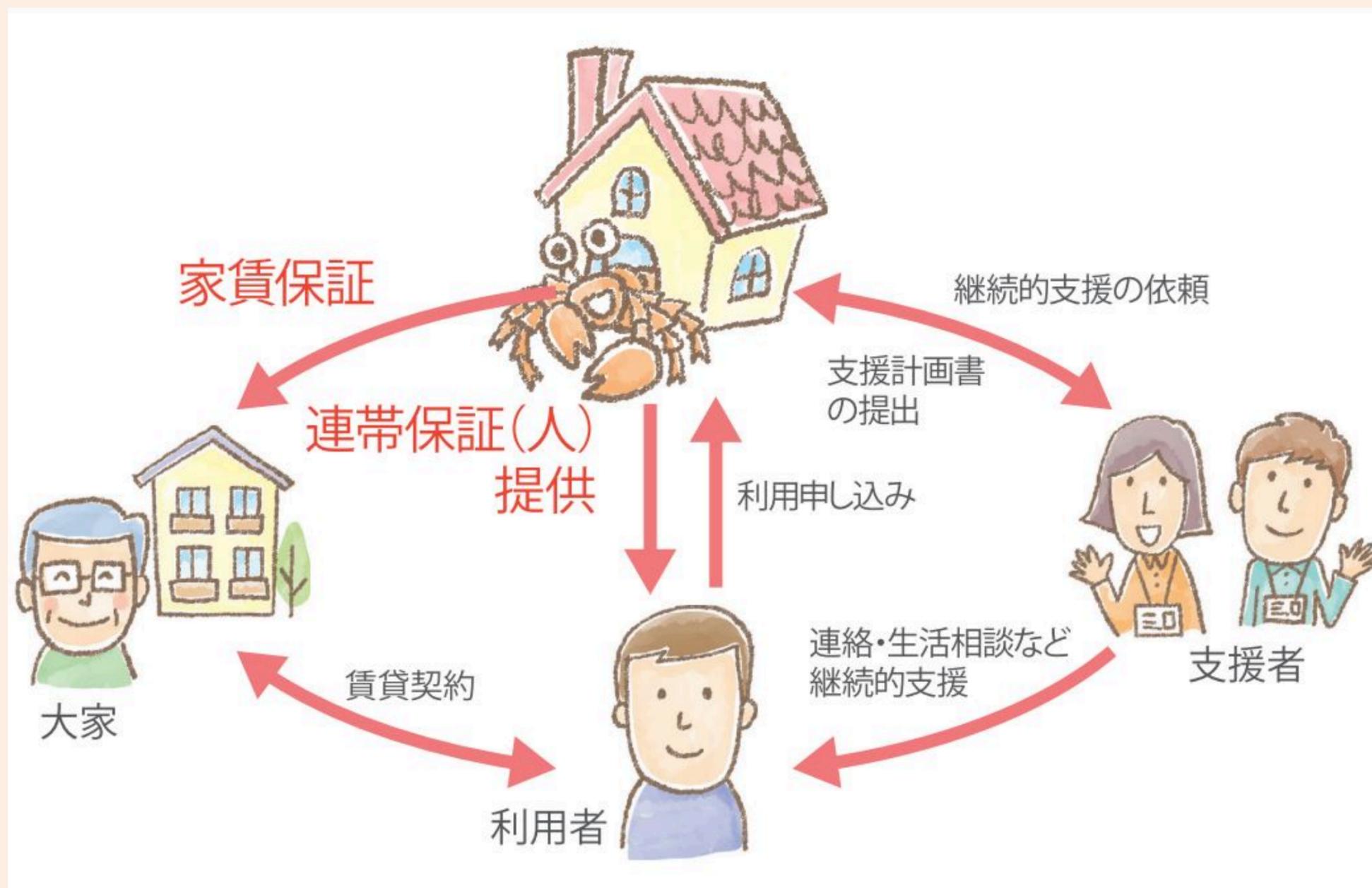


まず、本事業を行うに至った背景を説明いたします。



背景①

当法人の利用者の多くが、身寄りのない方々です



当法人の基幹事業

「地域ふくし連帯保証」

当法人は2007年から住宅の確保に困難を要する方に対し、地域福祉の担い手の方々と連携して賃貸住宅の連帯保証提供を含む居住支援である「地域ふくし連帯保証」を実施しています。2023年3月末時点で398件に、これまでのべ713件に保証を提供してきました。

2017年には鹿児島県より居住支援法人の指定を受け、また同県居住支援協議会による相談窓口を担い、2022年度には485件の相談を受け（新規相談：333件）、96件の入居支援と連帯保証を提供しました

当法人の利用者の多くは、**身寄りがない方々**です。



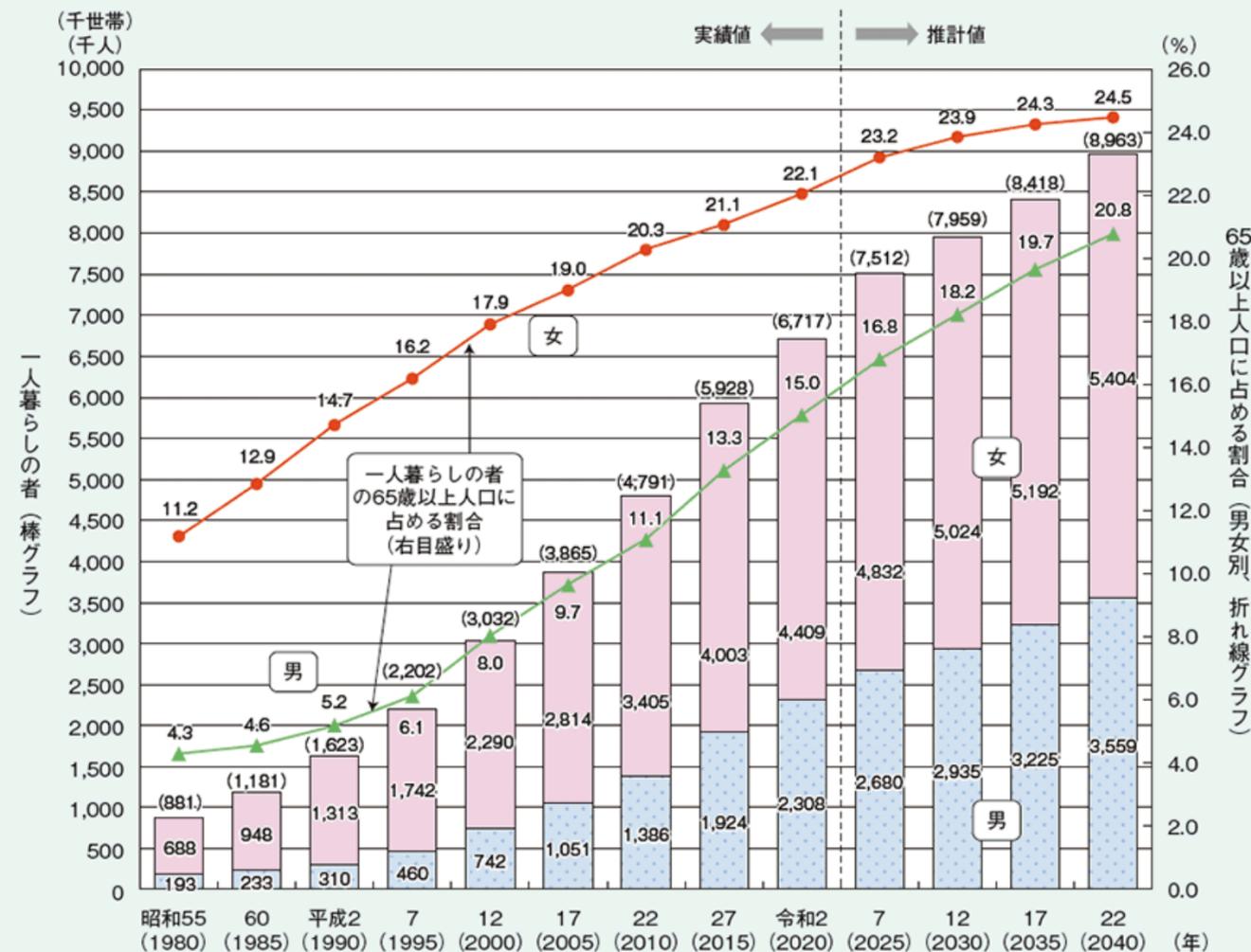
また、私たちは



背景②

これからの社会で求められるのは「地域葬」「互助会葬」ではないかと考えます

図1-1-9 65歳以上の一人暮らしの者の動向



資料：令和2年までは総務省「国勢調査」による人数、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」（2018（平成30）年推計）による世帯数
 (注1) 「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単独世帯」又は「一般世帯（1人）」のことを指す。
 (注2) 棒グラフ上の（ ）内は65歳以上の一人暮らしの者の男女計
 (注3) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

「家族葬」は当たり前？

葬儀等は家族がするものというのが社会の常識となっています。
 しかし、単身高齢者等身寄りがない人が増加しています。
 65歳以上の一人暮らしは男女ともに増加傾向にあり、昭和55年には65歳以上の男女それぞれの人口に占める割合は男性4.3%、女性11.2%であったのが、令和2年には男性15.0%、女性22.1%となっています。（※）

これからの社会で求められているのは「家族葬」ではなく、「地域葬」「他人葬」ではないかと私たちは考えます。

※令和4年版高齢社会白書（全体版）



① 通年にわたって「つながるファイルを書く会」を開催

つながるファイル

もしもの時(死亡)のこと(2)

記入日 年 月 日 11

■ お墓について

入るべきお墓・納骨堂が決まっている

墓 地 区 面
納 骨 堂 名 称 番 号
住 所
電 話 番 号

合祀でかまわない

次の方法による埋葬を希望する

散骨 → 散骨すべき場所 ()
 その他 ()

■ 死亡の事実を知らせてほしい人

直ちに知らせてほしい人

■ 賃貸借契約の解除

死亡時にアパート・マンション等の賃貸借契約を締結している場合、その解除を希望しますか？

はい、解除してほしいです
 いいえ、相続人に引き継いでほしいです

■ 水道・ガス・電気等の解約

死亡時に水道・ガス・電気等の契約を締結している場合、その解約を希望しますか？

はい、次のものを解約してほしいです
 水道 ガス 電気
 その他 ()

※ なお、相続人以外では解約ができない場合もあります

■ 相続債務の支払い

死亡時に、未払のまま残っている債務があった場合、その支払いを希望しますか？

はい、支払いを希望します
 いいえ、相続人に引き継いでほしいです

場所：鹿児島市の居場所サロン内

実施回数：14回（2024年1月末現在）（全18回予定）

参加のべ人数：68名（2024年1月末現在）

参加実人数：12名

『身寄り』がないということは、自分のことを代わりに説明してくれる人がいないことを意味します。そのため、『身寄り』がないと、医療決定や死後の対応といった場面で、困難に陥りがちです。

そこで、私たちは「つながるファイル」を作成しています。

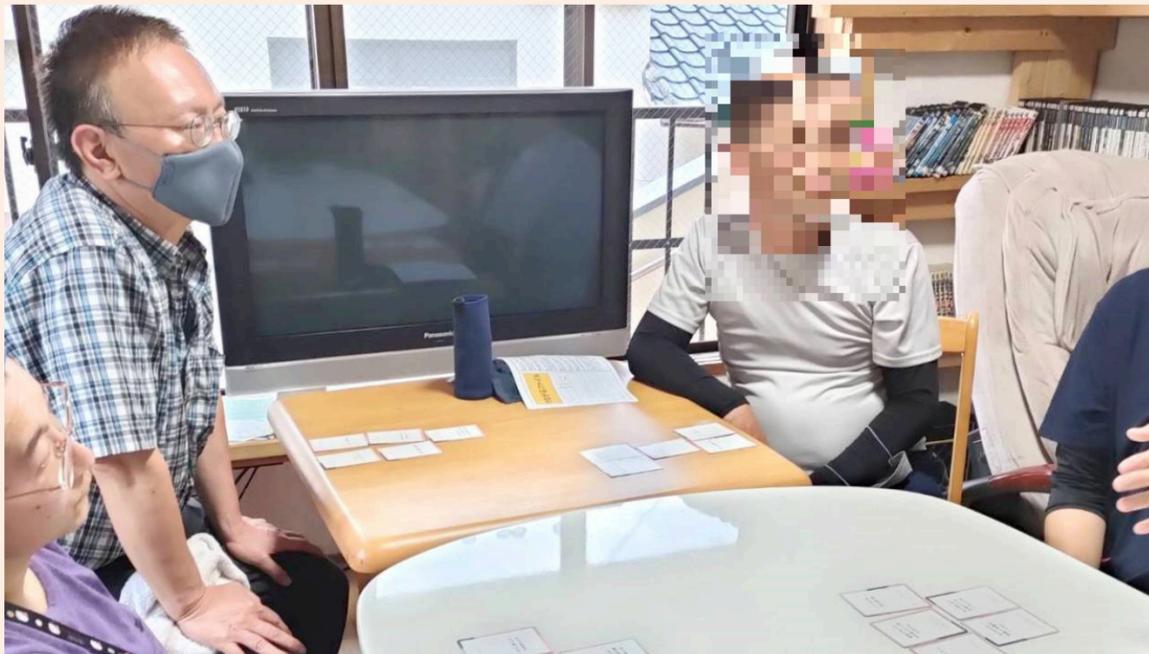
「つながるファイル」はいわゆるエンディングノートとたいへん似たような内容になりますが、私たちは「つながるファイル」を『身寄り』がなくても困ることなく生きていけるようにするための情報共有ファイルと定義しています。

本事業では、「つながるファイル」を作成するための集まりである「つながるファイルを書く会」を14回開催しました。

「つながるファイルを書く会」では、「つながるファイル」を書こうとしている人を、当法人の理事・職員で司法書士・社会福祉士等の資格を有する専門職だけでなく、すでの「つながるファイル」を完成させた「先輩」がサポートしました。



② 通年にわたって「つながるファイル」を「語る」会を開催



場所：鹿児島市の居場所サロン内

実施回数：3回（2024年1月末現在）（全4回予定）

参加のべ人数：15名（2024年1月末現在）

参加実人数：8名

「つながるファイル」を作成するにあたって一番難しいのが、終末期医療に関する考えです。

多くの方が簡単に「延命治療はしなくていい」と述べられますが、その結論に至るまでにもっと自分の考えを自分自身で見つめなおす機会が必要なのではないかという疑問を抱えてきました。

様々な試行錯誤を繰り返す中で、「もしバナゲーム」というゲームに出会いました。「もしバナゲーム」は、35枚のカードに死の間際に「大事なこと」として人がよく口にする言葉の中が書いてあり、その中から自分にとって重要なものを選んでいくゲームであり、ゲームをすることで、自分にとって何が重要なのか、そして、なぜそれが必要なのかを考え、理解することができるものになっています。

「つながるファイル」の完成までに、必ず1回は

「つながるファイルを『語る』会」に参加することになっています。



③ 通年にわたって「居場所サロン」を開催



場所：鹿児島市の居場所サロン内
実施回数：49回（2024年1月末現在）（全59回予定）
参加人数：のべ301名（2024年1月末現在）
参加実人数：43名

「つながるファイルを書く会」「つながるファイルを『語る』会」に加えて、「地域葬」「互助会葬」を行うコミュニティの絆を深めていくために、また新規参加者を増やしていくために「居場所サロン」を継続的に実施しました。



お盆には、これまでに亡くなったなかまたちを偲んで、お盆供養を行いました。サロンのなかまのお一人に元ご住職の方がおられ、おつとめをお願いしたところ、快くお引き受けくださりました。

集まったなかまたちはもちろん全員が他人どうしですが、ともに故人を偲ぶとき、自然と人と人が一体となり互いの絆が強まっていくように感じられました。



④ 「共同墓設立に向けた検討会」を開催



第1回共同墓設立に向けた検討会

2023年10月5日開催，参加者11名

つながるあんしん事業契約者及びつながるあんしん事業の契約を今後検討されている方々が集まり共同墓設立に関して意見交換を行いました。つながるあんしん事業契約に必要な「つながるファイル」についても説明を行いました。

第2回共同墓設立に向けた検討会

2023年10月26日開催，参加者11名

株式会社IP-STYLE 井之上氏，立和名氏を講師としてお招きし，葬儀や納骨堂の共同墓について具体的な内容の説明をいただき，意見交換を行いました。

第3回共同墓設立に向けた検討会

2023年11月29日開催，参加者13名

居場所サロンに集合し，皆で納骨堂・葬儀場の見学を行いました。それぞれ説明を聞くことで具体的なイメージを持つことができました。

第4回共同墓設立に向けた検討会

2023年12月7日開催，参加者11名

第1回～第3回の振り返りを行った上で，今後共同墓についてどのようにするかについて意見交換を行いました。



⑤ つながるあんしん事業広報のためのリーフレットを作成



現在の状況：業者の方と打ち合わせを行っています。現在作成の途中段階です。

今後の予定：デザイン等が確定できしだい印刷を行い、3月下旬には完了予定です。

「緊急連絡先となることによる支援に関する契約」と「死後事務委任契約」を行う事業、『つなぐるあんしん事業』広報のためのリーフレットを現在作成中です。

身寄りがない場合に、どのような場面でどのように困りごとが生じるのか。それを事業者としてしっかり伝えていくことが必要と考えており、文章等を吟味しているところです。

デザイン等が確定できしだい印刷を行い、3月下旬には完了予定となっています。



「地域葬・互助会葬を目指す「つながるファイル」事業」の成果

本事業の成果①

本事業をとおして8人の方が「つながるファイル」を完成させました。これにより、当事者どうしの支えあい助けあい、そして見送りあい弔いあう関係を基盤としつつ、当法人と「緊急連絡先となることによる支援に関する契約」と「死後事務委任契約」を締結している人は16人になり、地域葬・互助会葬を目指すなかまの輪が一層広がりました。

本事業の成果②

通年をとおして「居場所サロン」を継続することで、互助する暮らし方を実践するなかまの輪が広がり、参加者たちの絆もより深まりました。

本事業の成果③

「つながるファイル」をとおして見送りあい・弔いあう関係を紡いだなかまたちのための共同墓ができました。

本事業の成果④

実際の支援事例をとおして「つながるファイル」が医療現場において十分に役に立つものであり、それどころか、本人や支援者にとってだけでなく医療関係者にとってもたいへん有益なものであることがわかりました。



実は、先日70代の身寄りのない男性がお亡くなりになりました。
非常に悲しい出来事ではありましたが、
この事業のおかげで、この男性は『互助会葬』を終え、
3月には共同墓に入ることになっています。



本当に、本当にありがとうございました。

